慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経営サイバネティックスに関する一考察 - インターナショナルハーベスタ社の事例から -
Sub Title	
Author	岡林大二郎(Okabayashi, Daijirou) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第534号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0534

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0534

学生氏名　岡林 大二郎　（キャタピラー三菱株式会社）
所属ゼミナール　関谷 章研
主査　関谷 章
副査　小野 桂之介
青井 倫一

経営サイバネティックスに関する一考察
― インターナショナルハーベスタ社の事例から ―

環境が急速に変化する中で、企業で“生き残り”ということばをよく聞くようになった。

「生き残るためには、どういう組織内での活動が必要なのか」という問題意識から、生存可能性システムという形でその理論をあきらかにしたスタッフォード・ビーアの経営サイバネティックスを研究の対象にした。

研究にあたっては、題材として「戦前多角化事業として名声を築きながら戦後の多角化事業運営に失敗し、トラックエンジン事業に縮小したインターナショナルハーベスタ社」をとり上げた。その経営活動の史的展開において、あらわれた活動をビーアの生存可能システムの各構成システムに分類し、ビーアの生存可能性システムモデルを用いてその活動を検討した。

その結果、ビーアの生存可能性システムモデルは、環境に対応し、生存可能な形で組織内の活動を構造化しているかどうかを診断するツールとして有用なものであることがわかった。さらに本研究で用いた簡単な分類による手法は組織活動診断の入口として使えるものであることがわかった。